

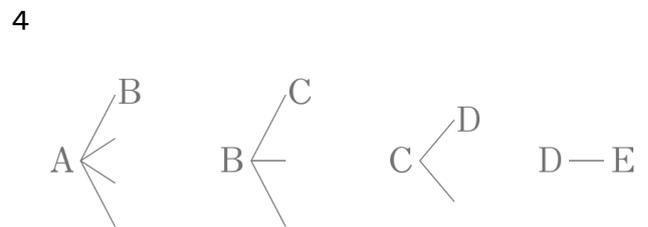
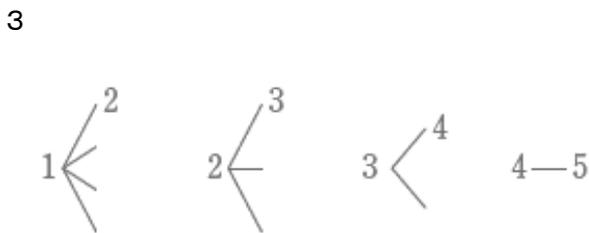
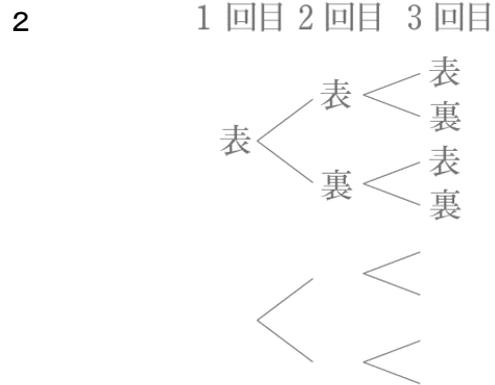
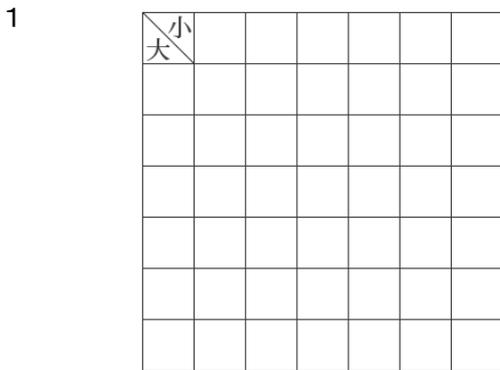


確率の求め方

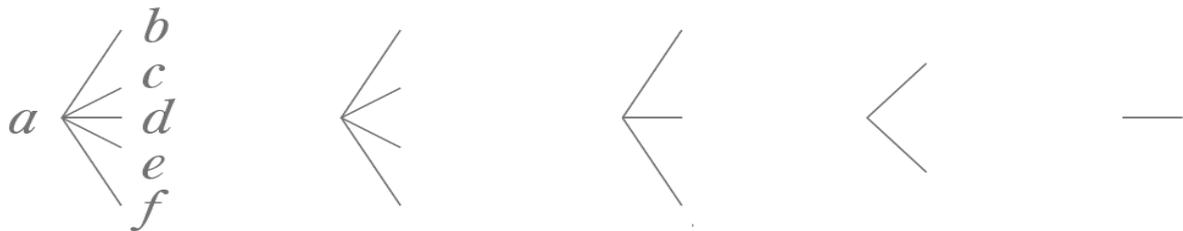
起こり得る場合が全部でn通りあり，そのどれが起こることも同様に確からしいとする。そのうち，あることがらの起こる場合がa通りあるとき，そのことがらの起こる確率Pは次のようになる。

$$P = \frac{a}{n} \quad (P \text{ は } 0 \text{ 以上 } 1 \text{ 以下の値})$$

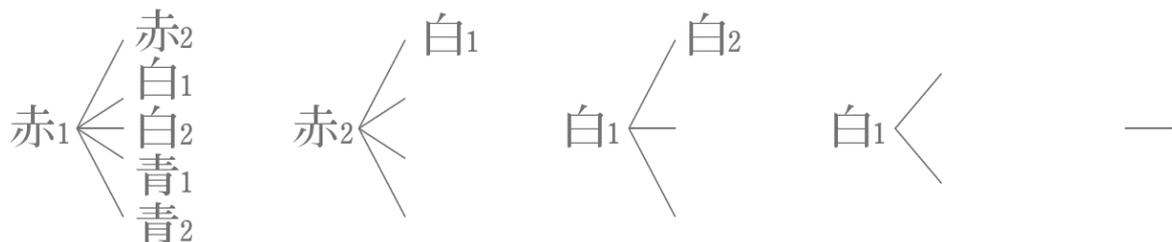
1 表や樹形図の続きをかいて考えよう。



5 6本のくじをあたりくじをa, b, はずれくじをc, d, e, fとする。



6 赤玉2個を赤1, 赤2, 白玉2個を白1, 白2, 青玉2個を青1, 青2とする。



2

1 まず、得点を小さい方から順に並べる。

$$(\text{範囲}) = (\text{最大値}) - (\text{最小値})$$

最頻値…データの中で最も多く出てくる値

中央値…データを大きさの順に並べたとき、中央にくる値。データの数が偶数のときは、中央に並ぶ2つの値の合計を2でわった値を中央値とする。

$$\text{平均値} = \frac{\text{データの値の合計}}{\text{データの総数}}$$

2 (2) 表1からそれぞれ求める。(正の字を書くとうわかりやすい。)

$$(3) (\text{相対度数}) = \frac{(\text{その階級の度数})}{(\text{度数の合計})}$$

3 (1) 累積度数…度数分布表において、最小の階級から各階級までの度数を加えたもの。

(2) 度数折れ線は、ヒストグラムの各長方形の上の辺の中点を順に結び、両端の階級の左右に度数が0の階級があるものとして、横軸の上に点をとってさらに結ぶ。

(3) 累積相対度数…最小の階級から各階級までの相対度数を加えたもの。

$$(\text{記録が 8.2 秒以上 8.6 秒未満の階級の累積度数}) \div (\text{総度数})$$

4 (2) 下の図に、データを小さい順に並べ、中央値を境にして、前半のデータと後半のデータの2つに分けて考える。



第1四分位数…前半のデータの中央値

第2四分位数…全体のデータの中央値

第3四分位数…後半のデータの中央値

(3) 箱ひげ図をかくには、

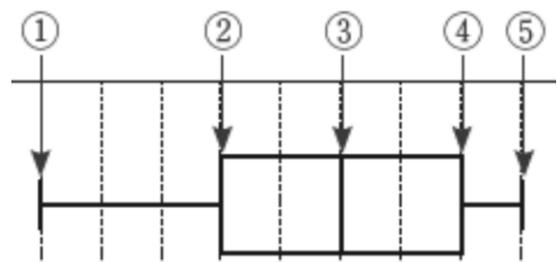
① 最小値

② 第1四分位数

③ 第2四分位数

④ 第3四分位数

⑤ 最大値



が必要である。